

インターバンクの声（2016 年 5 月 26 日）

昨日の東京時間は伊勢志摩サミットの開催を控え様子見ムードが広がりドル円は 110 円を挟んでの揉み合いとなったものの海外市場では 110 円台での動きに。その背景の一つとして長時間を要してのユーロ圏財務相会議での、対ギリシャ救済プログラムを通じた 103 億ユーロの追加融資や債務負担軽減策に対する基本合意を決定。これにより IMF は債務軽減策を評価したギリシャ救済プログラムに参加するかどうかを決定するという明るいニュースを好感し、リスク先行的な動きを背景に欧米株が上昇、ポンド円を筆頭にクロス円の上昇も手伝い、ドル円も 110 円 45 銭まで上昇する展開となった。

オプション市場ではドル円の 1 ヶ月物の円コールスプレッドが年初来で最低となるなど円先安観が強まっているが、現状では 111 円台からの上値に観測される数多くのチャートポイントを上抜ける確信には依然として疑心暗鬼を払拭できる状況にはない。

伊勢志摩サミットが為替相場に与える影響は軽微になるとのコンセンサスも聞かれ、為替市場の関心は、明日の米 1-3 月期 GDP 改正值やイエレン議長の討論会での発言に集まっているようだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。